

日頃の授業で心掛けておくべき事

☑1 年度初めのオリエンテーションが重要

- (1) 教師の教科に対する思いを伝える。
- (2) 自分の授業での決まりや心がけを伝える。
- (3) 評価をどのようにするのか示す。
- (4) 宿題の意味や評価について伝える。家庭学習で行っておきたいことについて伝える。
- (5) 定期テスト後の誤答処理ノートについて教える。定期テストの直しについて指示する。 等

☑2 「れもんカード」の掲示

- 「単元名」・「題材名」・「ねらい」・「学習課題」・「まとめ」・「ふりかえり」を必要に応じて掲示する。

☑3 分かりやすい板書を意識

- (1) チョーク1本の単調な授業にしない。⇒ 授業力は板書に現れる。
- (2) ラミネート化した写真を多用する。⇒ 生徒が興味を持ちやすく、集中しやすい。
- (3) 重要語句カードをあらかじめ作っておく。⇒ パソコンで重要語句を作っておくと、何度も使えるし、綺麗な字のため読みやすく、誤字を防ぐこともできる。
- (4) 構造的な板書にすることが大切。⇒ 授業が終わった時点で、その時間に習ったことが分かるように配置が工夫されていることが望ましい。
- (5) 「ねらい」や「学習課題」は事前に張り物を用意し、時間を短縮するとよい。

☑4 視聴覚教材を使う

- TVやプロジェクター、iPad等のICT機器を活用し、視聴覚教材で教える。

☑5 小テストやドリルを行う

- 繰り返し学習を行い、基礎力を養成する。その際、小テストやドリル等を毎日行う習慣づけは重要である。

☑6 少人数班による活動場面を設ける

- (1) 教師からの一方通行の授業にしない。
- (2) 男子2名女子2名で構成した小グループで話し合わせる場面をつくる。
- (3) 生徒が自分の意見を言って発散することができ、その後集中力を持続させることができる。
- (4) 友人の考えから、学ぶことができる。
- (5) 協働学習の視点で、「ここがわからないから教えて」と言え、理解を深める場面になる。
- (6) 教え合い学習ができるように指導していきたい。

☑7 まとめを行う

- (1) ねらいを基にして、生徒に評価を返しながら、模範解答を示す。
- (2) 「ねらい」とつながる、「ねらい」に対応した答えを示す。
- (3) 「学習課題」に対する結果を確認する。
- (4) 学習して学んだことを「学習課題」と関連させる。

☑8 振り返りを行う

- (1) 生徒が学習を振り返り、学習対象に対する自己の見方や考え方の高まり、自己の変容を自覚するものとなるようにする。
- (2) 「何がどこまで分かったか」「何が分かっていないのか」を自己評価させる。
- (3) 学んだ事や思った事を書き残させ、学びの手応えや意義を感じさせる。

☑9 評価について

- (1) 展開場面において、評価を行う。
- (2) 展開や発表の場面において、優れた学習活動を行っている生徒を見つけておく。この評価を絶対評価の4と5に生かす。

☑10 ねらいについて

- 探究学習の授業づくりにおいて、何を学び取らせたいのかがはっきりしていないと授業の展開や発問構成が曖昧になるやすい。したがって、通常の授業において、ねらいをはっきりさせることはとても重要となる。これらのことから、毎日の授業の中で、学習指導要領等の表現を用いた分かりやすいねらいを示す習慣をつけておきたい。